

投稿して、いいねはつくのに

コメントも時々つく / 相談や申込みが増えない

売上につながらず、誰が見ているか分からない状態

続ける意味が見えなくなる
発信が「独り言」に感じる

「反応の数」ではなく「矢印の向き」を疑う

原因は「頻度」ではない

本当の理由

相手不在の言葉出し

- 信頼が積み上がっていない状態
- 読者が安心して進めない構造
- 誰向けかが曖昧で、行動が見えない

結果として接点生まれ
努力の方向が「自分」に向いている

「いいね」は「届いた」ではない

- × いいねがつけられれば届いているという認識
- × 真面目に書けば伝わるという前提
- × 文章力の問題だという思い込み
- × 投稿数を増やせば変わるという期待
- × 自分の考えを出せば十分という姿勢

結果として記憶に残らない

発信の矢印が「自分」に向く状態を卒業する

言葉の矢印を「外」へ向ける

信頼を積み上げる設計基準

投稿ごとの目的を先に決める / 読む人の状態を想像する
届けたい相手を一人に置く / 届いてほしいを最優先する

一文ごとに「背中を押せるか」確認

信頼は「姿勢の積み上げ」で作る

「仕事」に繋がる発信へ

読者の記憶に残りやすくなる
発信に「安心感」が出る

- 読後の迷いが減り、接点生まれる
- 投稿数を増やさず、反応（質）が変わる
- 無料相談などの次のステップが自然化する

発信の楽しさが戻ってくる

投稿前に、自分に問う

1. 投稿前に「一人」を決める
2. その人の今の状態を「一言」で置く
3. 今日は何を届ける投稿か目的を決める
4. 朝読む人か夜読む人か確認する
5. 冒頭一行をその状態に合わせる
6. この一文は背中を押せるか見直す

迷う投稿は出さずに整える
「自分」を消して「相手」を置く

独り言化を防ぐ「点検カード」

読者不在を戻すための基準

信頼不足の原因を特定し、姿勢を正す設計図

- 感覚投稿を減らすための装置
- 止まったときに戻るべき絶対的な基準
- 継続発信の土台を支えるカード

「独り言」を「対話」に変える。

矢印の向きを、変える。

- いいねだけを追う発信を続ける
- 接点生まれる設計に変える
- 自分向きの投稿を相手向きへ切り替える
- ズレを切り分けて、今日から修正する

判断基準は「信頼の蓄積」

必要な人だけ、次のステップへ。